



2023年3月期 第1四半期決算報告

2022年8月4日

株式会社 

1. 2023年3月期 第1四半期決算報告

2. 2023年3月期 通期見通し

Q1実績

- 売上収益： 1,456億円
- 営業利益： 153億円 (全てのセグメントで営業黒字)
- 当期利益： 118億円
(親会社の所有者に帰属)

前年比

- 売上収益： 134億円増
- 営業利益： 46億円減
- 当期利益： 40億円減
(親会社の所有者に帰属)
- 利益水準は、前年の土地売却や米国年金による一時利益の影響を除けば、前年並み
- 精機事業以外のセグメントで増収増益
 - 映像事業： 112億円増収、44億円増益 円安効果と製品ミックス改善
 - 精機事業： 104億円減収、94億円減益 FPD露光装置の販売台数減
 - コンポーネント事業： 52億円増収、33億円増益 部品・コンポーネント販売増

注：本資料で使用している数値は、億円未満は切り捨て

注：22年3月期第1四半期の一時損益は、土地・建物売却益 23.5億円、米国年金 19億円 (米国年金は、米国子会社の年金制度の変更に伴う一時的な利益を2022年3月期に計上)

2023年3月期 Q1：財務ハイライト



単位：億円	22年3月期 Q1実績	23年3月期 Q1実績	前年比
売上収益	1,322	1,456	+134
営業利益	199	153	▲46
営業利益率	15.1%	10.5%	
税引前利益	211	165	▲46
税引前利益率	16.0%	11.3%	
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	158	118	▲40
当期利益率	12.0%	8.1%	
FCF	▲28	▲31	▲3
為替：USドル	110円	130円	売上収益への影響 +107
ユーロ	132円	138円	営業利益への影響 +26

円安効果等により前年比増収も、前年の一時利益の剥落を主因に減益

2023年3月期 Q1：セグメント別業績



単位：億円		22年3月期 Q1実績	23年3月期 Q1実績	前年比
映像事業	売上収益	500	612	+22.4%
	営業利益	92	136	+44億円
精機事業	売上収益	518	414	▲20.1%
	営業利益	134	40	▲94億円
ヘルスケア事業	売上収益	158	217	+37.3%
	営業利益	4	8	+4億円
コンポーネント事業	売上収益	77	129	+67.5%
	営業利益	21	54	+33億円
産業機器・その他	売上収益	67	81	+20.9%
	営業利益	▲10	6	+16億円
各セグメントに配賦 されない全社損益	営業利益	▲43	▲92	▲49億円
連結	売上収益	1,322	1,456	+10.1%
	営業利益	199	153	▲46億円

各セグメントに配賦されない全社損益の減少は、前年の土地売却益の剥落・セグメント間取引消去額の変動が主因

注：2023年3月期より「次世代プロジェクト本部」は、「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益」に移管、2022年3月期へ遡及適用

2023年3月期 Q1：映像事業



単位：億円	22年3月期 Q1実績	23年3月期 Q1実績	前年比
売上収益	500	612	+112
営業利益	92	136	+44
営業利益率	18.6%	22.2%	
レンズ交換式 デジタルカメラ	22万台	20万台	▲2万台
交換レンズ	39万本	34万本	▲5万本
レンズ一体型 デジタルカメラ	7万台	4万台	▲3万台

Q1前年比： 増収・増益

- プロ・趣味層向け中高級機へのシフトによる平均販売単価の上昇、円安効果もあり増収増益

2023年3月期 Q1：精機事業



単位：億円	22年3月期 Q1実績	23年3月期 Q1実績	前年比
売上収益	518	414	▲104
営業利益 営業利益率	134 26.0%	40 9.7%	▲94
FPD露光装置	13台	7台	▲6台
半導体露光装置 新品／中古	0/1台	4/4台	+4/+3台

Q1前年比： 減収・減益

- 半導体露光装置の販売は増加したものの、大型パネル向けを中心とするFPD露光装置の減少を打ち返せず減収減益

注：2023年3月期より「次世代プロジェクト本部」は、「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益」に移管、2022年3月期へ遡及適用

2023年3月期 Q1：ヘルスケア事業



単位：億円	22年3月期 Q1実績	23年3月期 Q1実績	前年比
売上収益	158	217	+59
営業利益	4	8	+4
営業利益率	2.6%	4.1%	

Q1前年比： 増収・増益

- 生物顕微鏡の販売が北米市場で伸長し、網膜画像診断機器も堅調で、円安効果もあり増収増益

2023年3月期 Q1 : コンポーネント事業



単位：億円	22年3月期 Q1実績	23年3月期 Q1実績	前年比
売上収益	77	129	+52
営業利益	21	54	+33
営業利益率	27.3%	41.7%	

Q1前年比： 増収・増益

- 半導体関連製品向け光学部品・光学コンポーネント、EUV関連コンポーネント、FPDフォトマスク基板等の販売増により、増収増益

2023年3月期 Q1：産業機器・その他



単位：億円	22年3月期 Q1実績	23年3月期 Q1実績	前年比
売上収益	67	81	+14
営業利益	▲10	6	+16
営業利益率	▲15.1%	7.8%	

Q1前年比：増収・増益

- 産業機器事業では、半導体及び電子部品向けのCNC画像測定システム等の測定機の販売が増加し増収
- 「その他」に含まれる生産子会社の稼働率が改善し、営業利益も改善

1. 2023年3月期 第1四半期決算報告

2. 2023年3月期 通期見通し

2023年3月期 上期見通し

- **売上収益： 2,750億円**（前回予想から200億円下方修正）
- **営業利益： 230億円**（前回予想据え置き）
- **当期利益： 170億円**（前回予想据え置き）
（親会社の所有者に帰属）
 - 映像事業：Q1実績を踏まえ、売上収益50億円、営業利益50億円それぞれ上方修正
 - 精機事業：FPD・半導体露光装置の一部の据付完了が下期にずれ込むため、売上収益250億円、営業利益50億円をそれぞれ下期へシフト

2023年3月期 通期見通し

- **全社見通しは、映像事業の上期見通しの上方修正を反映**
- **売上収益： 6,250億円**（前回予想から50億円上方修正）
- **営業利益： 550億円**（前回予想から50億円上方修正）
- **当期利益： 420億円**（前回予想から40億円上方修正）
（親会社の所有者に帰属）
- **為替レート： USドル 122円、ユーロ 132円**（2Q以降は前回予想据え置き）
- **配当予想： 年間配当40円、中間配当金20円**（前回予想据え置き）

2023年3月期 通期見通し：財務ハイライト



単位：億円	22年3月期 実績	前回予想 (5/12)	今回予想 (8/4)	前年 実績比	前回 予想比
売上収益	5,396	6,200	6,250	+854	+50
営業利益	499	500	550	+51	+50
営業利益率	9.3%	8.1%	8.8%		
税引前利益	570	520	570	±0	+50
税引前利益率	10.6%	8.4%	9.1%		
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	426	380	420	▲6	+40
当期利益率	7.9%	6.1%	6.7%		
EPS	116.23円	103.47円	114.78円	▲1.45円	+11.31円
年間配当	40円	40円	40円	±0円	±0円
為替：USドル	112円	120円	122円	売上収益への予想影響	
				+217	+56
ユーロ	131円	130円	132円	営業利益への予想影響	
				+47	+14

注：EPS（基本的1株当たり当期利益）＝当期利益÷期中平均株式数（2022年3月期実績は約3.67億株で計算、2023年3月期末見通しは約3.66億株で計算）

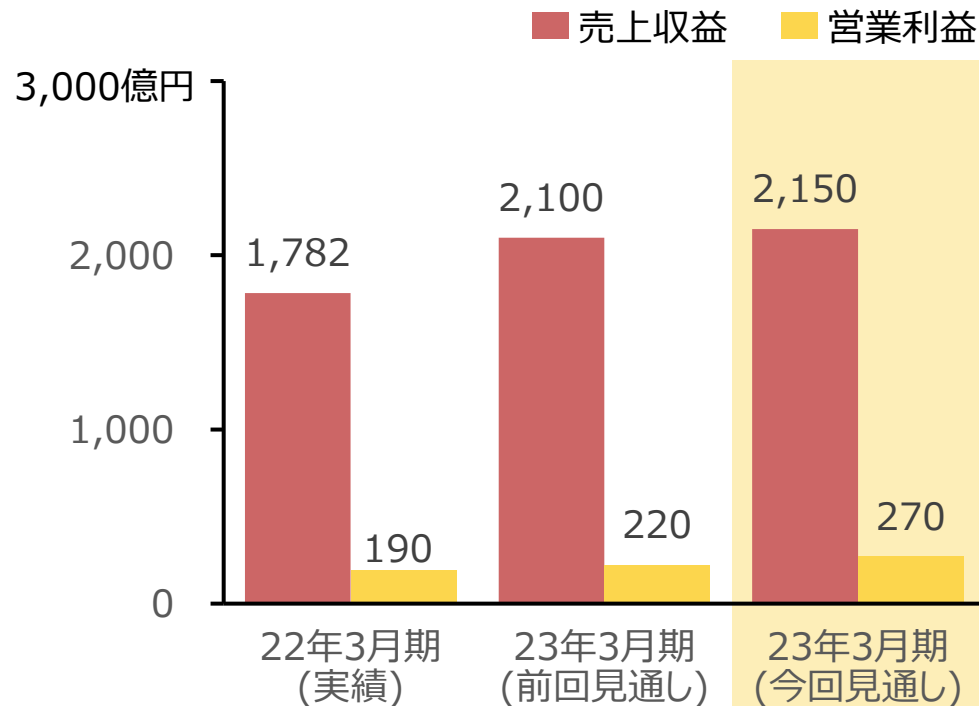
2023年3月期 通期見通し：セグメント別見通し



単位：億円		22年3月期実績	前回予想 (5/12)	今回予想 (8/4)	前年実績比	前回予想比
映像事業	売上収益	1,782	2,100	2,150	+368	+50
	営業利益	190	220	270	+80	+50
精機事業	売上収益	2,112	2,400	2,400	+288	±0
	営業利益	394	350	350	▲44	±0
ヘルスケア事業	売上収益	732	800	800	+68	±0
	営業利益	43	60	60	+17	±0
コンポーネント事業	売上収益	408	530	530	+122	±0
	営業利益	127	170	170	+43	±0
産業機器・その他	売上収益	360	370	370	+10	±0
	営業利益	29	40	40	+11	±0
各セグメントに配賦 されない全社損益	営業利益	▲286	▲340	▲340	▲54	±0
連結	売上収益	5,396	6,200	6,250	+854	+50
	営業利益	499	500	550	+51	+50

注：2023年3月期より「次世代プロジェクト本部」は、「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益」に移管、2022年3月期へ遡及適用

2023年3月期 通期見通し：映像事業



レンズ交換式デジタルカメラ (万台)			
市場規模	512	510	510
ニコン	70	70	70
交換レンズ (万本)			
市場規模	939	940	940
ニコン	127	125	125
レンズ一体型デジタルカメラ (万台)			
市場規模	272	220	220
ニコン	19	10	10

● 売上収益：前年比 368億円増収（前回比50億円増収）

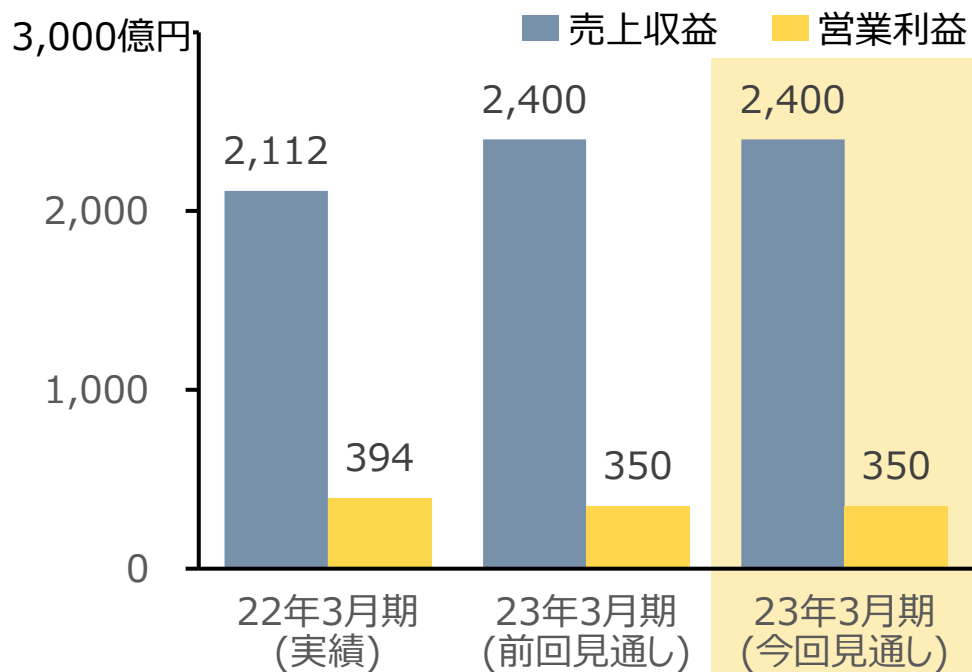
- 市場台数及び当社の販売台数は、前回予想から据え置く
- プロ・趣味層をターゲットとした中高級機カメラへのシフトは順調に推移、ミラーレスカメラ・交換レンズを中心に売上拡大し、前年比増収を見込む
- Q1実績を反映し、通期予想を前回予想比50億円増収の2,150億円に引き上げ
- 部品調達制約は継続しており、対応に注力

● 営業利益：前年比 80億円増益（前回比50億円増益）

- 中高級機カメラの販売増、平均販売単価の向上に加え、円安効果により、前年比増益を見込む
- 製品競争力の向上を図るため、開発費用等の経費増加を見込む
- Q1実績を反映し、通期予想を前回予想比50億円増益の270億円に引き上げ

注：レンズ一体型デジタルカメラは、ボディとレンズが一体となり、レンズ交換不可のカメラを指す（ニコンの該当機種：COOLPIX P1000, P950等）

2023年3月期 通期見通し：精機事業



FPD露光装置販売台数 (台)			
市場規模 (CY21/22)	116	95	95
ニコン	46	31	31
半導体露光装置販売台数 (新品/中古、台)			
市場規模 (CY21/22)	390	460	460
ニコン	17/18	39/22	39/22

● 売上収益：前年比288億円増収 (前回予想据え置き)

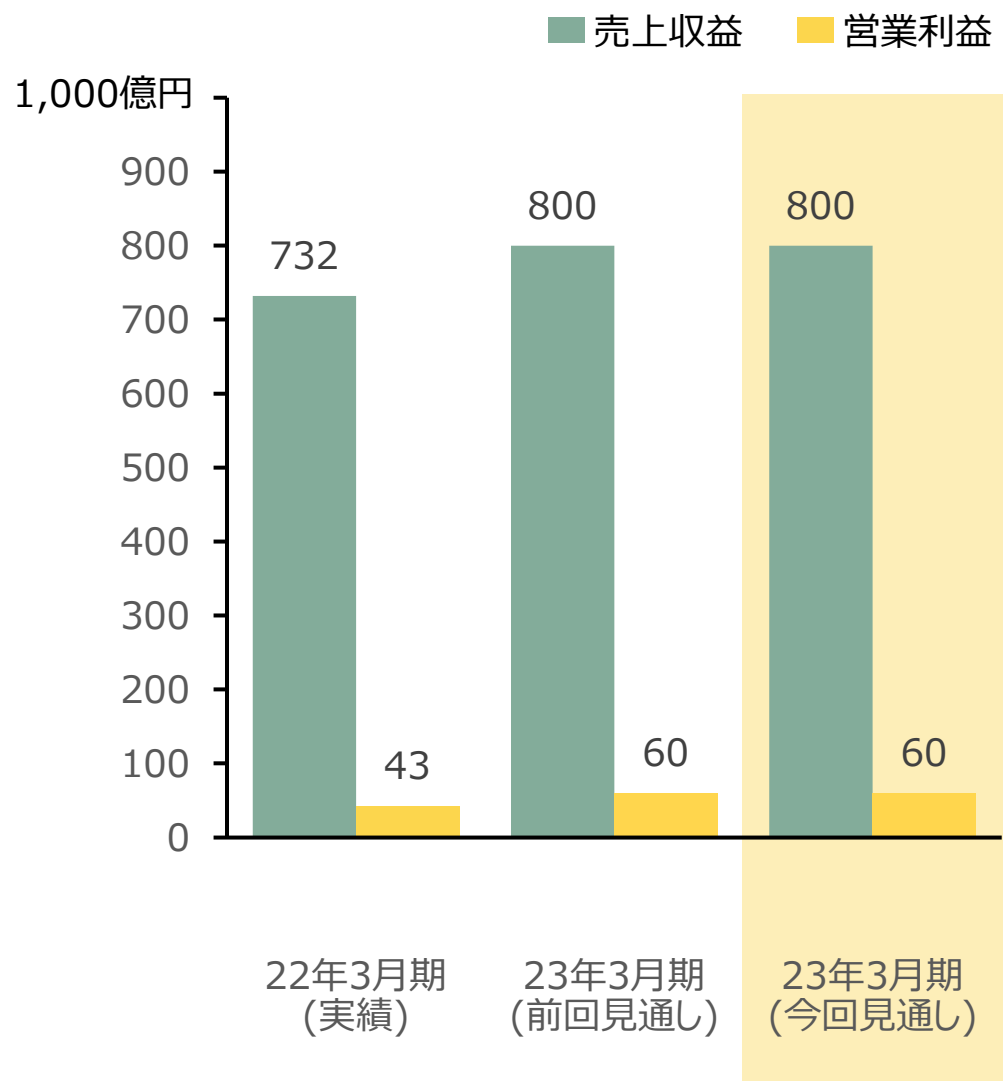
- FPD露光装置は、露光装置の台数減の影響を受け、大きく減収
- 半導体露光装置は、顧客の堅調な需要から、ArF露光装置を中心とした新品装置の販売台数が増加し増収
- サービスビジネスは堅調に推移するも、一過性の案件を含む前年からは減収
- 前回予想比では、FPD・半導体露光装置共に、顧客都合により、一部装置の据付完了が上期から下期に繰延

● 営業利益：前年比44億円減益 (前回予想据え置き)

- 半導体露光装置は、サービスビジネスの減益を新品・中古号機の販売台数増により補い、増益
- FPD露光装置の販売台数減による減益の影響が大きく、精機事業全体では期初想定どおり、前年比減益を見込む

注：2023年3月期より「次世代プロジェクト本部」は、「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益」に移管、2022年3月期へ遡及適用

注：2023年3月期より、半導体露光装置の市場全体及びニコン販売分の双方に、i線を含む非微細化領域の露光装置を含めて表記 (2022年3月期分についても新しい台数の計上基準で表示)



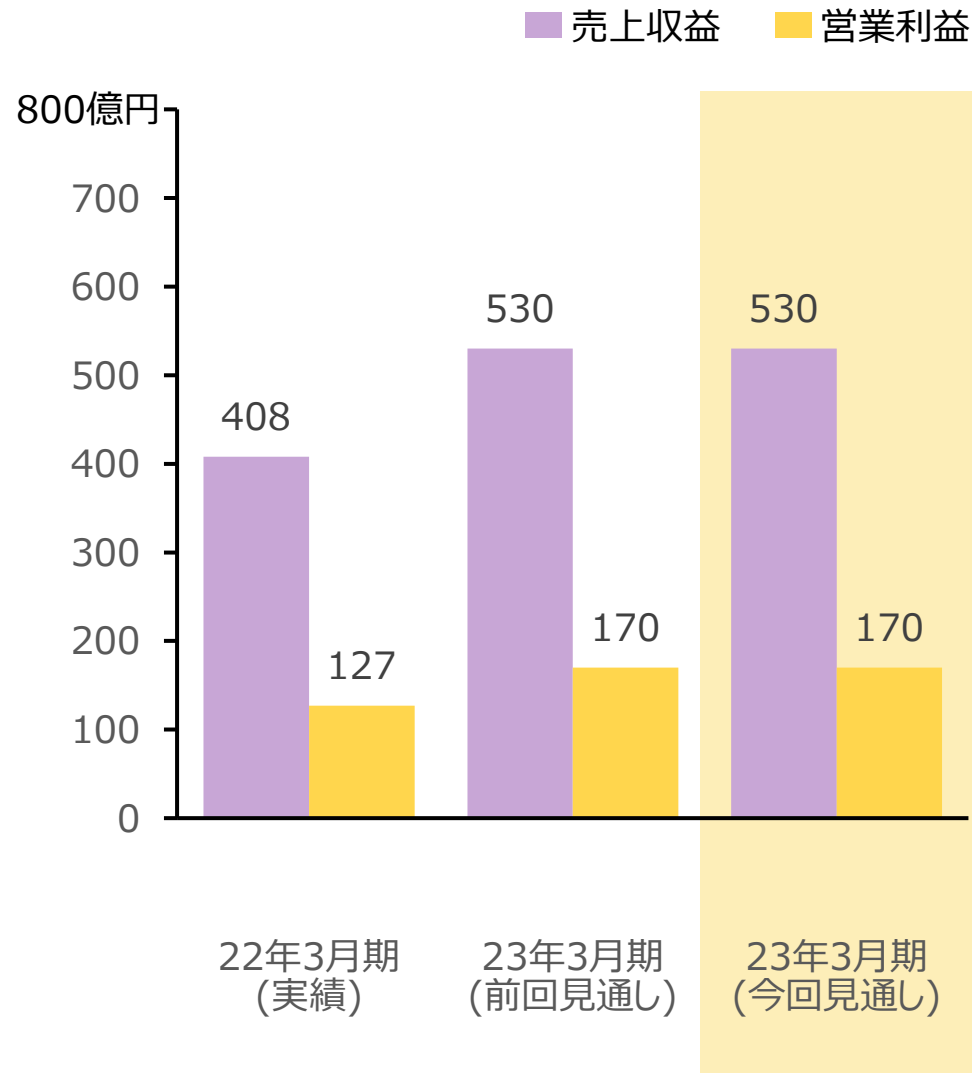
● 売上収益：前年比68億円増収（前回予想据え置き）

- 今期も過去最高の売上を更新する見込み
- 生物顕微鏡は、北米を中心に新製品の拡販および民間市場の開拓による増収を見込む
- 網膜画像診断機器は北米のほか、欧州・アジアでの売上増加を目指す
- 生物顕微鏡、網膜画像診断機器共に半導体部品・物流の逼迫は継続しており、安定供給に努める

● 営業利益：前年比17億円増益（前回予想据え置き）

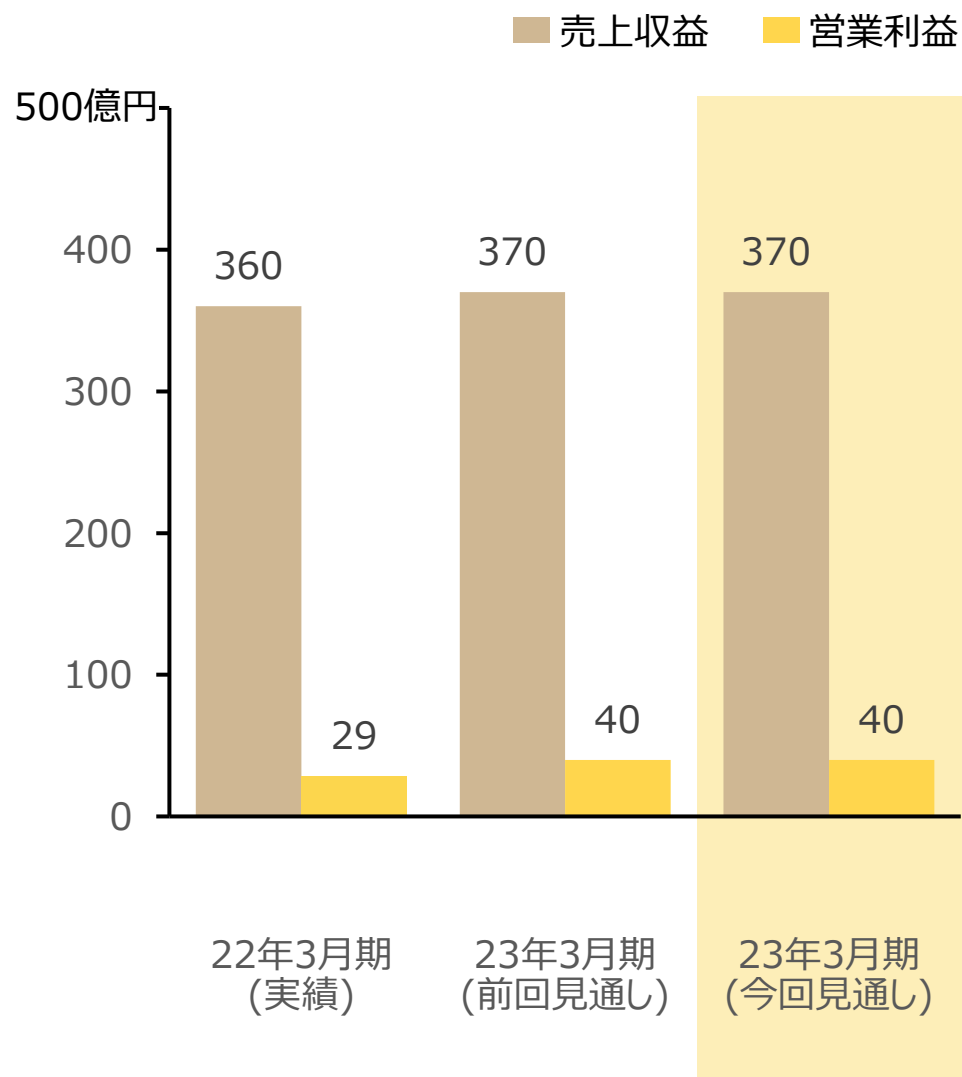
- 生物顕微鏡の増収効果等により増益

2023年3月期 通期見通し：コンポーネント事業



- **売上収益：前年比122億円増収**（前回予想据え置き）
 - EUV関連コンポーネント、半導体関連製品の光学部品、光学コンポーネント品やFPDフォトマスク基板等が売上拡大に寄与
- **営業利益：前年比43億円増益**（前回予想据え置き）
 - 増収効果により増益

2023年3月期 通期見通し：産業機器・その他



● 売上収益：前年比10億円増収（前回予想据え置き）

- 産業機器事業では、CNC画像測定システムの堅調な販売に加え、X線検査装置等の売上拡大を見込む

● 営業利益：前年比11億円増益（前回予想据え置き）

- 「その他」に含まれる国内生産子会社の稼働率向上により増益
- 産業機器事業では、新製品の研究開発や販売体制強化のため、費用増加を見込む